

大人の仲間入り

多辺田 裕之  
(上町5)



月日が経つのは早いもので、私達も成人式を迎えることとなりました。

この成人式を境に大人の仲間入りとなるのですが正直実感がないです。なぜなら私達のこれからの生活は変化することはないからです。

成人になったとは言え、学生である私は経済面、精神面等、様々なところで両親に助けられています。早く自立し、両親を助けたいと思う気持ちはあるのですが、今の自分の生

活を考えるともう少し両親に支えてもらわなければなりません。

しかし、成人式を迎え、久しぶりに旧友と会い、就職し、きちんと自立している者や、結婚し、家庭を築いているものもいて、驚きと自分もすっかりしなければならぬと改めて実感しました。

私も20歳になり、周りから大人として見られるようになり、社会に対する責任と義務が重くのしかかっています。

それを跳ね返せる大人になる為、日々努力していきたいと思えます。

昨年、祖父と祖母を一度に亡くし、母が悲しむ姿を見て両親の大切さを実感しました。その母が成人になるにあたり、一つの詩をくれました。最後に自分の気になっているところを抜粋します。「二度とない人生だからまず一番身近な者たちにできるだけのことをしよう 貧しいけれど心豊かに接していこう」

# 成人の日を迎えて

二十歳になって思うこと

藤井 まり子  
(栗山4)



新年の始まりとともに誕生日を迎え、私は二十歳になりました。

この横芝町に産声をあげてから、もう20年もの年月がたったのかと、自分でも驚きま

す。なぜなら、これまで自分が成人になるなんて考えたこともなかったからです。しかし、この成人式を迎えてもなお、私には大人としての自覚が、未だ芽生えていないように思います。東京に出て一人暮らしを始めても、相

変わらず両親に心配ばかりかけて、一人立ちできずにいます。何年たっても大人になれない自分を、情けないとさえ思います。

けれども、今どんなに大人に近づこうと背伸びをしても、結局は行き詰まり、逆に多くの人たちに迷惑をかけてしまうのではないかと不安です。

だから、二十歳になったからといって焦るのではなく、少しずつ大人になってゆこうと考えています。

「一人で大きくなったんじゃない。みんなに支えられて大きくなったんだよ。」というメールを、先日の20回目の誕生日に母からもりました。

この言葉をいつも念頭に置き、今までお世話になった人たちに恩返しできるような大人になりたいと思います。そしてまた、これまでの20年間を振り返りつつ、これからの人生でも自問自答をくり返し、着実に一人前の大人へと前進して行ける20代を送りたいと思っています。

